

		部会名	土地利用
技術・情報名	スルホニルウレア系除草剤のクログワイ塊茎形成抑制効果		
実施機関名	三重県農業技術センター・作物部	分類	3

1. 技術・情報の内容

1) 技術・情報の内容及び特徴

近年、水田の難防除雑草であるクログワイの発生面積が増加し問題となっている。そこでクログワイに有効なスルホニルウレア系除草剤を3カ年連年使用し、その除草効果を明らかにした(表1、表2)。

(1) スルホニルウレア系除草剤(ベンスルフロンメチル混合剤、ピラゾルフロンエチル混合剤)の単用処理により、クログワイの発生量(風乾重)はピラゾレート・ブタクロール粒剤区の20~50%に抑制される。さらに、CNP・ダイムロン粒剤との体系処理で除草効果は向上し、クログワイの発生量は10~20%に抑制される(図1)。

(2) スルホニルウレア系除草剤を3カ年連年使用すると、全層のクログワイ塊茎数はピラゾレート・ブタクロール粒剤区の50~60%に減少するが、塊茎の平均1個生重に差はみられない。

塊茎数および塊茎の大きさを層別にみると、15~25cm層ではピラゾレート・ブタクロール粒剤区の80~95%の塊茎が残存するが、0~15cm層では塊茎数は25~40%に減少し、塊茎の平均1個生重も小さくなる(図2)。

2) 技術・情報の適応効果

難防除雑草クログワイの防除技術確立のための基礎資料となる。

3) 普及・利用上の留意点

本成果は4月下旬移植の早期栽培に適用できる。

2. 具体的データ

表1 供試除草剤の有効成分および含有率

薬剤名	有効成分	含有率	既知	含有率
DPX-84混合剤	ベンスルフロンメチル	0.17%	既知	1.0%
NC-311混合剤	ピラゾルフロンエチル	0.07%	既知	0.8%
NTS-1粒剤	CNP	9.0%	不明	7.0%
NS-256粒剤	ダイムロン	8.0%	不明	2.5%

表2 除草剤の処理条件

試験区名	処理時期	処理量(g/a)
DPX-84	+15	300
NTS-1→DPX-84	+3 → +25	300 → 300
NC-311	+15	300
NTS-1→NC-311	+3 → +25	300 → 300
NS-256	+3	300

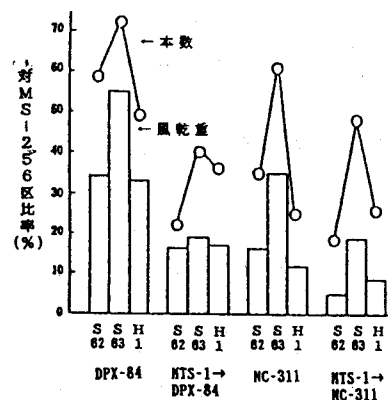


図1 クログワイに対する除草効果の年次推移
備考: 残草量調査 S62, S63 移植後56日
H1 移植後67日

3. その他特記事項

研究課題名: 除草剤による難防除雑草クログワイの防除効果

研究期間: 昭和62年~平成元年

予算区分: 経常

研究担当者: 北野順一・田上征夫

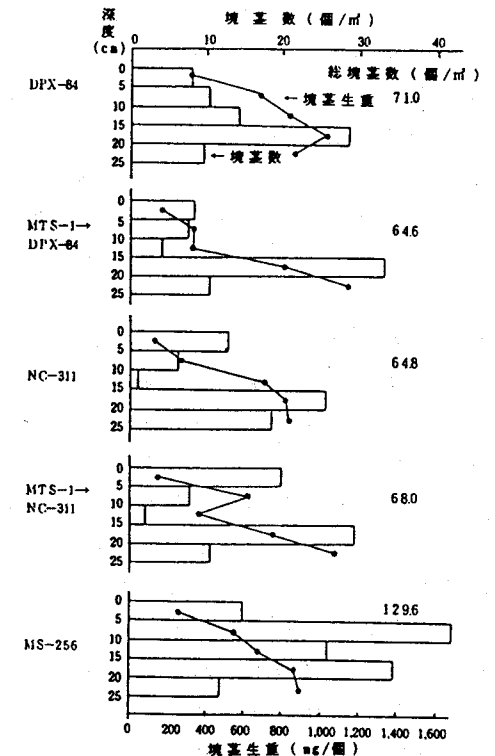


図2 除草剤3年連用後のクログワイ塊茎の深度別分布(H1)